

学校教育の構造と転換

学歴社会を考える

【事前課題】

下記の意見について、200字程度で批判しなさい。(批判すべき点をどうしても思いつかない場合は、「批判できません」と記して提出してください。また批判できない明確な理由があれば、その理由も記してください)

「封建時代の社会は、家柄・出自・身分・性別など生まれながらの属性によって人の一生が大枠で決められていた。これに対し、私たちが生きている近代社会では『職業選択の自由』が認められ、個々人の能力・努力によって階層間移動の可能性が開かれている。しかも現在、少なくとも義務教育段階まで、ほぼすべての人に平等に教育を受ける機会が保障されている。したがって、学校での成績に応じて進学や将来の職業・社会的地位が決まるのは正当で合理的である。生まれながらの属性(家柄・出自・性別・人種など)に基づく封建的な差別は不当であり、決して許してはならない。しかし、個々人の能力・努力に基づくフェアな競争・業績の結果として生まれる差別化は、不当な『差別』ではなく、尊重・評価すべき『区別』である。しかも、こうしたフェアな競争こそが個々人の努力や能力の発展を促進し、それが社会全体を発展・進歩にもつなげる。現実の社会には厳しい競争や社会的地位の格差が存在する。いずれそのような社会に巣立つ子どもたちにとっても、学校での競争・学歴社会の経験は必要な訓練の場でもある。」